

開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、暑さの厳しいなか、このように多くの皆様にお越しいただき、心から御礼申し上げます。

また、京都府の山田知事をはじめ来賓の皆様には、お忙しいなかにもかかわらず、ご出席いただき誠にありがとうございます。

さて今年、日本最古の歴史書といわれる古事記が編纂されて1300年という記念すべき年です。島根は特に古事記とのゆかりが深く、古事記の上巻に語られる神話の3分の1が、出雲に関連する神話で占められています。島根には、今も多くの神話の伝承地が存在し、人々の生活の中にも古代の精神が息づいています。

また、来年5月には、60年ぶりとなる出雲大社の大遷宮が予定されています。現在、国宝の本殿をはじめ重要な建築物の修造工事が進められているところです。

このような歴史的な節目に当たり、島根の魅力を全国にアピールし、多くのみなさんに「神話のふるさと島根」を訪れていただくため、官民を挙げて、「神々の国しまねプロジェクト」に取り組んでいます。地元島根では、この事業のシンボルとなるイベント「神話博しまね」が今月21日に開幕し、11月11日まで出雲大社周辺を主会場に開催しております。

明日から一般公開される「大出雲展」も、このプロジェクトの重要事業として取り組んできたものです。京都をはじめとする関西圏の多くの皆様に、島根の多彩な古代文化を知っていただき、島根へお越しいただくきっかけになればと、大いに期待しております。

今回の展覧会では、出雲大社の境内から発見された「宇豆柱」が県外では初めて公開されます。古代の出雲大社本殿は高さが48メートルもあったとの伝承があります。本殿を支えていた巨大な宇豆柱の発見により、この伝承が真実味を帯びるきっかけともなりました。本日ご来館の皆様も、この巨大な柱のスケールを実感していただき、古代出雲に思いをはせていただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の事業を共同開催していただきました京都国立博物館をはじめとする関係者の皆様、貴重な文化財の出品をご承諾いただいた所有者の皆様など、ご協力いただいた方々に深く感謝申し上げますとともに、本展覧会の成功を祈念いたしまして、開会の挨拶といたします。